

企業物流短期動向調査（日通総研短観） 調査結果

（2016年12月調査）

2017年1月

株式会社 日通総合研究所

目 次

I. 調査の内容.....	1
II. 調査の結果.....	3
1. 調査結果の概要.....	3
2. 国内向け出荷量の動向.....	5
3. 輸送機関利用の動向.....	9
(1) 一般トラック.....	10
(2) 特別積合せトラック.....	11
(3) 宅配便.....	12
(4) 鉄道コンテナ.....	13
(5) 内航コンテナ・RORO船.....	14
(6) 国内航空.....	15
4. 輸出入貨物量の動向.....	16
(1) 外貿コンテナ ー輸出ー.....	17
(2) 外貿コンテナ ー輸入ー.....	19
(3) 国際航空 ー輸出ー.....	21
(4) 国際航空 ー輸入ー.....	23
5. 在庫量と営業倉庫利用の動向.....	25
(1) 在庫量 ー原材料ー.....	26
(2) 在庫量 ー製品ー.....	27
(3) 営業倉庫保管量.....	28
6. 運賃・料金の動向.....	29
(1) 一般トラック運賃.....	30
(2) 特別積合せトラック運賃.....	31
(3) 鉄道コンテナ運賃.....	32
(4) 内航コンテナ・RORO船運賃.....	33
(5) 国内航空運賃.....	34
(6) 営業倉庫保管料金.....	35
7. 物流コスト割合の動向.....	36

I. 調査の内容

目的 : 本調査は、足もとの出荷状況等を各企業（事業所）の物流担当者に直接回答していただくことで、荷主企業の物流動向について業種横断的かつ包括的な情報を、データの形で迅速に公の場に提供することを目的として実施するものである。

方法 : 本調査はアンケート方式により、四半期ベース（3月、6月、9月、12月の年4回）で実施する。

調査項目は次のとおりであり、当期実績見込みと次期見通しを対前年同期比「増加する」、「横ばい」、「減少する」もしくは「値上り」、「変わらない」、「値下り」等の3つの選択肢の中から選択回答する。

1. 国内向け出荷動向
2. 輸送機関別利用動向（一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空）
3. 輸出入貨物の動向（外貿コンテナ、国際航空）
4. 在庫量（原材料、製品）と営業倉庫利用の動向
5. 運賃・料金の動向（一般トラック、特別積合せトラック、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空、営業倉庫保管）
6. 売上高に対する物流コスト割合の動向

集計は、調査項目ごとに各選択肢の回答事業所数を集計し、その合計事業所数に対する割合を算出、以下により動向判断指標^(*)とする。

$$\text{動向判断指標} = \left[\begin{array}{l} \text{「増加する（値上り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{「減少する（値下り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right]$$

なお、この指標は荷動き等に対する各事業所の（定性的な）動向を集約するものであり、この結果がそのまま全体としての（定量的な）出荷量などの増減を意味するものではない。

(*) 動向判断指標：本調査では、調査項目に応じて『荷動き指数』、『運賃動向指数』等の名称を付している。

調査対象 : 製造業、卸売業の主要2,500事業所を対象とする。

－今回調査の回収・集計状況－

今回調査は、2016年10～12月の実績と2017年1～3月の見通しを12月初旬時点でうかがったものであり、1,008社からご協力をいただき、回答率は40.3%となった。

なお、業種別にみた調査対象企業数、回答企業数ならびに回答率は、次表のとおりである。

調査対象企業数と回答企業数

	業 種	調査対象 企業数	回 答 企業数	回答率(%)
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	234	104	44.4
	繊 維 ・ 衣 服	111	33	29.7
	木 材 ・ 家 具	89	40	44.9
	パ ル プ ・ 紙	110	45	40.9
	化学・プラスチック	239	109	45.6
	窯 業 ・ 土 石	102	38	37.3
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	195	99	50.8
	金 属 製 品	128	52	40.6
	一 般 機 械	222	91	41.0
	電 気 機 械	333	113	33.9
	輸 送 用 機 械	251	96	38.2
	精 密 機 械	69	29	42.0
	そ の 他	167	57	34.1
		計	2,250	906
卸 売 業	生 産 財	124	51	41.1
	消 費 財	126	51	40.5
	計	250	102	40.8
	合 計	2,500	1,008	40.3

Ⅱ. 調査の結果

－ 1. 調査結果の概要－

- 2016年10～12月実績（見込み）の国内向け出荷量『荷動き指数』は△4と、前期（2016年7～9月）実績の△8から4ポイント上昇した。また、2017年1～3月見通しでは△4と横ばいの動きが見込まれている。
- 業種別『荷動き指数』については、2016年10～12月実績（見込み）では、全15業種中過半数の8業種において改善したが、プラスの業種は金属製品など5業種にとどまった。2017年1～3月見通しでは、電気機械、生産財卸がプラスに浮上するものの、プラスの業種は4業種にとどまる見込みである。
- 地域別『荷動き指数』については、2016年10～12月実績（見込み）では、6地域において改善したが、プラスの地域は北陸・信越、九州・沖縄の2地域のみとなった。2017年1～3月見通しでは、改善は3地域にとどまり、プラスの地域は北陸・信越、近畿の2地域のみで、回復の足取りは依然として鈍い。
- 輸送機関別『利用動向指数』については、2016年10～12月実績（見込み）では、3輸送機関で改善したが、全輸送機関において、引き続き『利用動向指数』はマイナスを示している。2017年1～3月見通しでは、引き続き全輸送機関で『利用動向指数』がマイナスとなるが、特別積合せトラックでは△1、宅配便では△2と水面近くまで戻す見込みであり、利用回復に向けた動きがうかがえる。
- 輸出入貨物量『荷動き指数』については、2016年10～12月実績（見込み）では、外貿コンテナの輸出、国際航空の輸出において上昇する一方、外貿コンテナの輸入で低下、国際航空の輸入では横ばいで推移し、『荷動き指数』は外貿コンテナの輸出でプラス、その他の輸送機関ではマイナスを示した。2017年1～3月見通しでは、全輸送機関において『荷動き指数』の低下が見込まれ、全輸送機関でマイナスとなり、荷動き回復に向けての足取りは依然として鈍い。
- 在庫量と営業倉庫保管量の『動向指数』は、2016年10～12月実績（見込み）では、営業倉庫保管量でプラス、製品在庫でゼロ水準、原材料在庫ではマイナスとなった。2017年1～3月見通しでは、営業倉庫保管量で『動向指数』がプラス、原材料在庫、製品在庫ではマイナスとなり、在庫調整は一進一退が続いている。

■ 運賃・料金水準『動向指数』については、2016年10～12月実績（見込み）では、国内航空で上昇する一方、一般トラック、倉庫保管料では横ばいで推移し、その他の機関においては低下した。『動向指数』は、内航コンテナ・RORO船以外の機関においてプラスとなった。2017年1～3月見通しでは、国内航空において『動向指数』が横ばいで推移する一方、その他の機関では小幅ながら上昇する。内航コンテナ・RORO船でマイナスにとどまる以外は、残りの5機関ではプラスを維持し、運賃・料金の緩やかな上昇基調に変化はない。

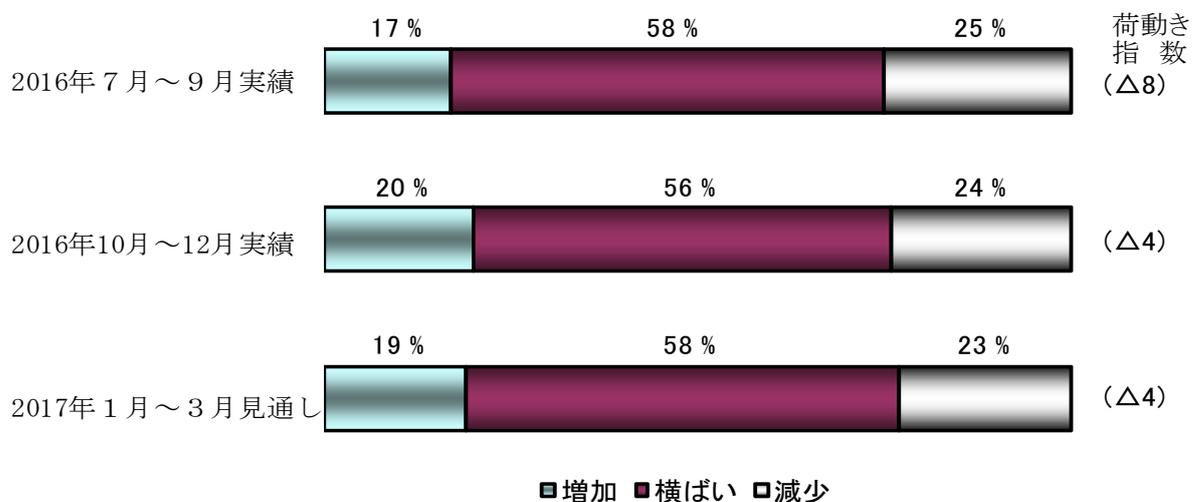
■ 売上高に対する物流コスト割合の『動向指数』については、2016年10～12月実績（見込み）では、電気機械が唯一マイナスを示し、輸送用機械、その他の製造業がゼロ水準で、残り12業種がプラスを示した。業種全体の『動向指数』はプラス9で、前期実績から弱含み横ばいで推移した。2017年1～3月見通しでは、電気機械、輸送用機械、その他の製造業がプラスに浮上する一方、6業種が低下する。業種全体の『動向指数』はプラス9と横ばいの推移が見込まれ、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強いものの、やや一服感がみられる。

－ 2. 国内向け出荷量の動向－

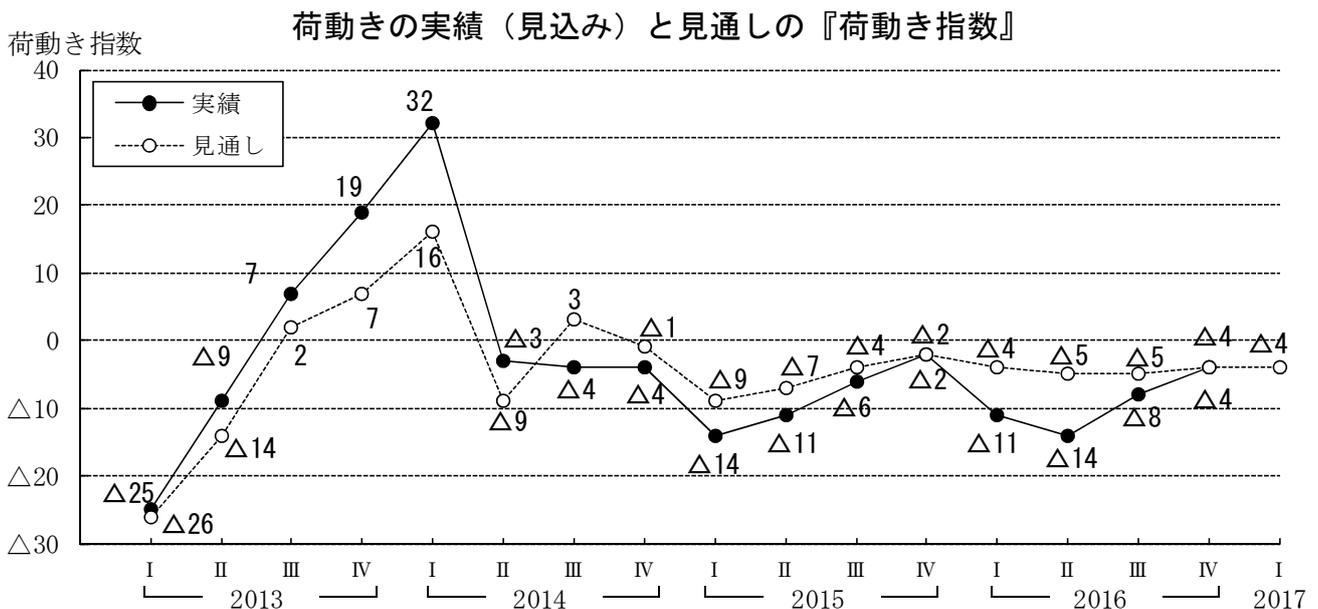
■ 2016年10～12月実績（見込み）における国内向け出荷量の動向をみると、前年同期比で「増加」との回答が前期（2016年7～9月）実績から3ポイント上昇し20%となった。一方、「減少」との回答は前期より弱含み横ばいで推移して24%となり、この結果『荷動き指数』（＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合）は4ポイント上昇して△4となった。

■ 2017年1～3月見通しの出荷量については、前年同期比で「増加」との回答が前期（2016年10～12月）実績（見込み）から弱含み横ばいで推移し19%となる一方、「減少」との回答も弱含み横ばいで推移し23%になる。この結果、『荷動き指数』は△4と横ばいの動きが見込まれる。

国内向け出荷量の実績と見通し

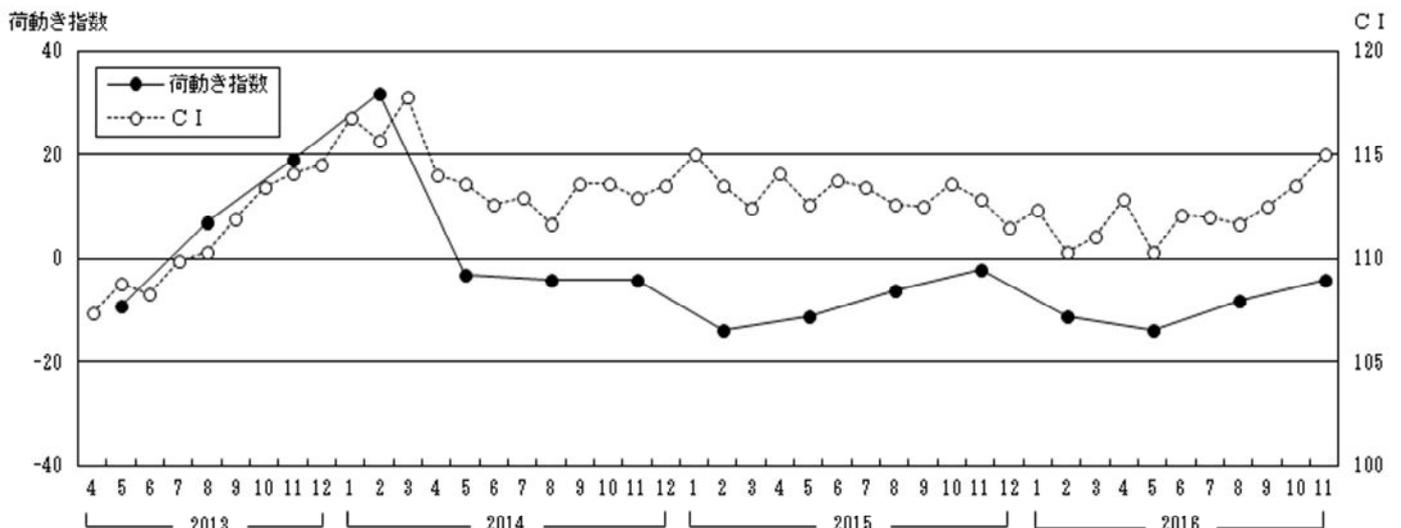


■ 今回調査の『荷動き指数』を前回までの調査と比較すると、駆け込み需要の反動などから2014年4～6月実績以降マイナスの推移が続いている。2015年1～3月実績では、前年同期における大幅な盛り上がりの反動もあって、△14と一段の悪化がみられたが、この時点を底に緩やかながら改善方向に動き、10～12月実績では△2まで戻した。しかし、2016年1～3月実績、4～6月実績では再び悪化に向かい、“二番底”を探る展開となった。なお、7～9月実績、10～12月実績（見込み）では緩やかに改善したが、2017年1～3月見通しでは横ばいにとどまっている。



注) 点線は各期に入る前の時点の見通しにおける『荷動き指数』(2017年I期の『荷動き指数』は今回調査時点の見通し)、実線は各期の途中の時点で判断した実績見込みの『荷動き指数』(2016年IV期の『荷動き指数』は今回調査における判断)。

景気動向指数（C I；一致指数）と国内向け出荷量『荷動き指数』（実績）の推移



注) 1. 荷動き指数は四半期ごとの数値のため、2月、5月、8月、11月の位置にプロットしている。
 2. 景気動向指数研究会によると、第15循環における景気の山は2012年3月、景気の谷は2012年11月となっている。

■ 2016年10～12月の業種別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、**全15業種中過半数の8業種において前期（2016年7～9月）実績より改善した。**ただし、プラスの業種は鉄鋼・非鉄、金属製品など5業種にとどまり、食料品・飲料がゼロ水準で、繊維・衣服、木材・家具など9業種がマイナスとなった。

■ 2017年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、電気機械および生産財卸がプラスに浮上する一方、鉄鋼・非鉄および精密機械がマイナスに沈み、金属製品もゼロ水準に下降する。この結果、**プラスの業種は4業種にとどまり、2業種がゼロ水準で、9業種がマイナスになる見込みである。**

国内向け出荷量の実績と見通し（業種別）

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	104	22	56	22	0	102	24	52	24	0	102	21	58	21	0
繊維・衣服	34	12	47	41	△ 29	31	6	58	36	△ 30	31	6	65	29	△ 23
木材・家具	39	18	54	28	△ 10	37	16	51	33	△ 17	37	14	62	24	△ 10
パルプ・紙	43	19	70	11	8	44	20	50	30	△ 10	44	14	61	25	△ 11
化学・プラスチック	114	15	64	21	△ 6	108	19	63	18	1	108	20	63	17	3
窯業・土石	38	18	50	32	△ 14	38	16	60	24	△ 8	38	19	55	26	△ 7
鉄鋼・非鉄	94	16	56	28	△ 12	98	27	53	20	7	96	15	61	24	△ 9
金属製品	52	15	72	13	2	51	25	65	10	15	49	16	68	16	0
一般機械	91	19	56	25	△ 6	87	16	54	30	△ 14	87	19	51	30	△ 11
電気機械	109	20	46	34	△ 14	113	20	53	27	△ 7	113	27	51	22	5
輸送用機械	96	15	61	24	△ 9	93	15	60	25	△ 10	93	23	50	27	△ 4
精密機械	29	21	48	31	△ 10	29	24	55	21	3	29	24	48	28	△ 4
その他	56	16	66	18	△ 2	55	31	45	24	7	55	20	64	16	4
計	899	17	58	25	△ 8	886	20	56	24	△ 4	882	19	58	23	△ 4
生産財	44	16	50	34	△ 18	50	18	54	28	△ 10	50	20	62	18	2
消費財	48	16	63	21	△ 5	50	16	56	28	△ 12	50	10	66	24	△ 14
計	92	16	57	27	△ 11	100	17	55	28	△ 11	100	15	64	21	△ 6
合計	991	17	58	25	△ 8	986	20	56	24	△ 4	982	19	58	23	△ 4

■ 2016年10～12月の地域別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、北陸・信越および九州・沖縄でプラスを示したが、残り7地域ではマイナスとなった。前期（2016年7～9月）実績との比較では、**北海道および四国で悪化の動きがみられる一方、近畿では横ばい、残り6地域において改善した。**

■ 2017年1～3月の『荷動き指数』見通しについては、九州・沖縄など5地域で悪化し、北陸・信越では横ばいとなる一方、関東、東海、近畿の3地域において改善の動きがみられる。ただし、**プラスの地域は北陸・信越および近畿の2地域にとどまり、回復の足取りは依然として鈍い。**

国内向け出荷量の実績と見通し（地域別）

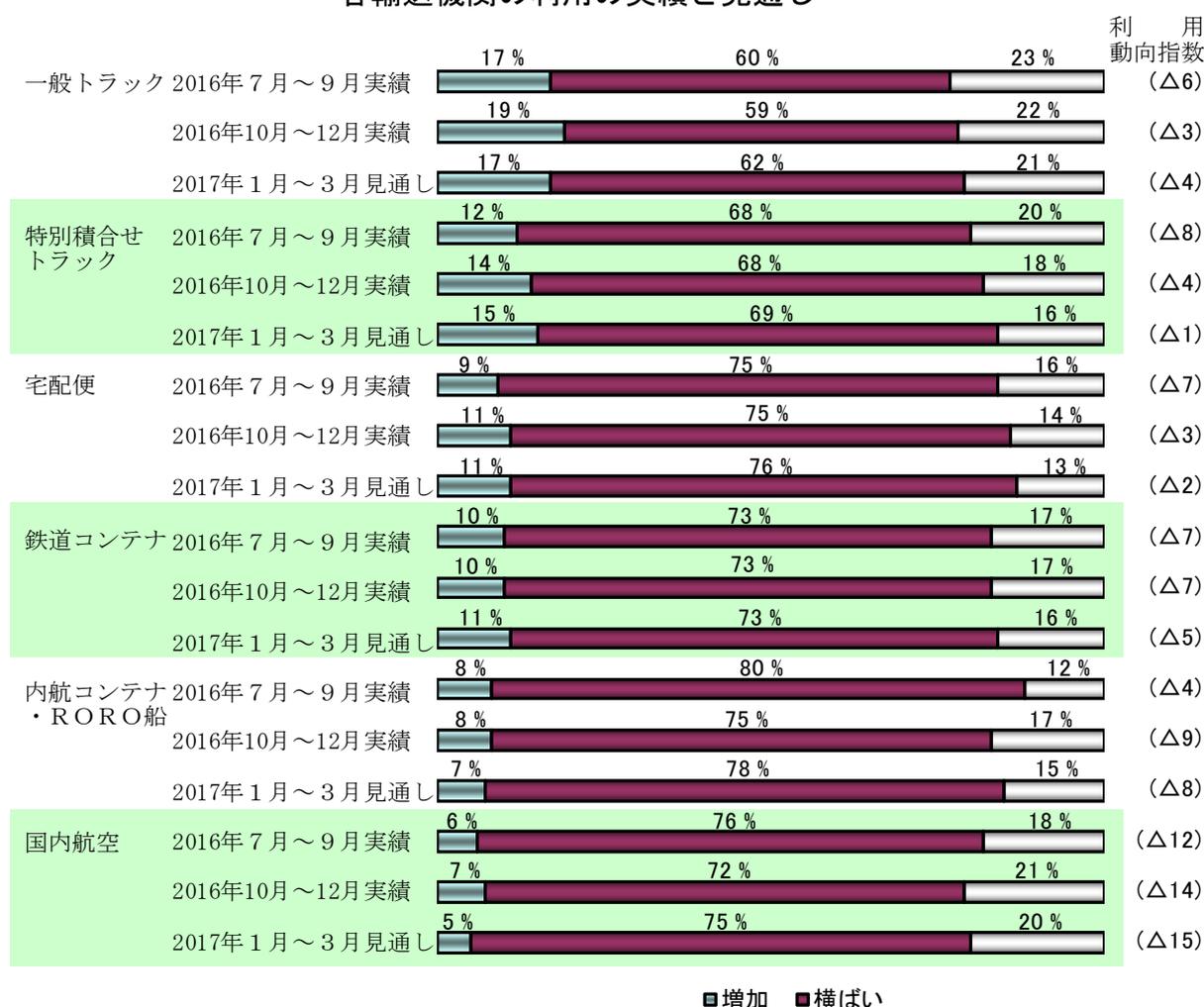
地 域	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
北海道	47	26	60	14	12	49	16	63	21	△ 5	49	14	61	25	△ 11
東北	89	19	54	27	△ 8	97	19	60	21	△ 2	96	21	52	27	△ 6
関東	259	16	56	28	△ 12	257	20	51	29	△ 9	257	19	54	27	△ 8
北陸・信越	80	15	59	26	△ 11	75	29	45	26	3	75	24	55	21	3
東海	161	17	57	26	△ 9	154	17	63	20	△ 3	153	18	63	19	△ 1
近畿	145	16	61	23	△ 7	148	19	55	26	△ 7	148	24	57	19	5
中国	90	18	61	21	△ 3	87	22	55	23	△ 1	85	16	65	19	△ 3
四国	53	13	61	26	△ 13	54	17	50	33	△ 16	54	9	63	28	△ 19
九州・沖縄	67	22	53	25	△ 3	65	23	62	15	8	65	15	66	19	△ 4
合計	991	17	58	25	△ 8	986	20	56	24	△ 4	982	19	58	23	△ 4

－ 3. 輸送機関利用の動向－

■ 2016年10～12月実績（見込み）の輸送機関別『利用動向指数』は、一般トラック、特別積合せトラック、宅配便で前期（2016年7～9月）実績より改善する一方、その他の輸送機関では横ばいないしは悪化の動きがみられた。**すべての輸送機関において、引き続き『利用動向指数』はマイナスを示している。**

■ 2017年1～3月の見通しでは、一般トラックおよび国内航空で悪化する一方、その他の輸送機関においては改善方向に動く。**引き続きすべての輸送機関で『利用動向指数』はマイナスとなるが、特別積合せトラックでは△1、宅配便では△2と水面近くまで戻す見込みであり、利用回復に向けた動きがうかがえる。**

各輸送機関の利用の実績と見通し



(1) 一般トラック

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、鉄鋼・非鉄、その他の製造業など5業種がプラス、食料品・飲料および精密機械がゼロ水準で、繊維・衣服、一般機械など8業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2016年7～9月）実績から3ポイント上昇して△3となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、電気機械がプラスに浮上し、生産財卸もゼロ水準まで戻す一方、パルプ・紙など4業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△4と弱含み横ばいで推移する見通しであり、利用減退の動きに変化はないとみられる。

一般トラック利用の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	105	20	60	20	0	102	23	54	23	0	102	22	56	22	0
繊維・衣服	29	14	52	34	△20	28	11	50	39	△28	27	4	59	37	△33
木材・家具	39	18	56	26	△8	39	18	51	31	△13	38	16	63	21	△5
パルプ・紙	44	18	68	14	4	45	22	60	18	4	45	9	73	18	△9
化学・プラスチック	112	13	68	19	△6	107	15	71	14	1	106	17	71	12	5
窯業・土石	36	22	50	28	△6	37	16	60	24	△8	37	16	54	30	△14
鉄鋼・非鉄	94	18	52	30	△12	96	25	59	16	9	96	14	70	16	△2
金属製品	51	16	75	9	7	51	23	63	14	9	50	18	62	20	△2
一般機械	93	16	57	27	△11	91	12	59	29	△17	89	15	57	28	△13
電気機械	104	18	51	31	△13	102	20	57	23	△3	102	24	57	19	5
輸送用機械	98	15	67	18	△3	93	15	61	24	△9	92	21	53	26	△5
精密機械	26	12	50	38	△26	26	23	54	23	0	26	23	42	35	△12
その他	57	16	68	16	0	57	30	53	17	13	57	19	67	14	5
計	888	17	60	23	△6	874	19	59	22	△3	867	18	61	21	△3
生産財	41	14	59	27	△13	49	20	53	27	△7	49	16	68	16	0
消費財	47	15	68	17	△2	48	13	60	27	△14	48	10	63	27	△17
計	88	14	64	22	△8	97	16	57	27	△11	97	13	65	22	△9
合計	976	17	60	23	△6	971	19	59	22	△3	964	17	62	21	△4

(2) 特別積合せトラック

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料、化学・プラスチック、金属製品の3業種がプラス、鉄鋼・非鉄、その他の製造業、消費財卸の3業種がゼロ水準で、木材・家具、一般機械など9業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2016年7～9月）実績から4ポイント上昇して△4となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄、金属製品、消費財卸の3業種がマイナスに沈む一方、窯業・土石、電気機械、その他の製造業の3業種がプラスに浮上するなど11業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△1と3ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きは弱まるとみられる。

特別積合せトラック利用の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	67	18	63	19	△1	76	18	66	16	2	76	22	62	16	6
繊維・衣服	25	8	56	36	△28	26	15	58	27	△12	26	12	69	19	△7
木材・家具	26	7	62	31	△24	26	15	54	31	△16	26	19	54	27	△8
パルプ・紙	24	17	71	12	5	26	12	69	19	△7	26	8	77	15	△7
化学・プラスチック	102	13	71	16	△3	95	13	78	9	4	94	15	75	10	5
窯業・土石	25	12	72	16	△4	27	15	63	22	△7	27	18	67	15	3
鉄鋼・非鉄	67	15	66	19	△4	68	16	68	16	0	68	13	69	18	△5
金属製品	35	11	75	14	△3	37	19	68	13	6	35	11	72	17	△6
一般機械	66	7	73	20	△13	64	8	69	23	△15	63	14	62	24	△10
電気機械	89	10	59	31	△21	87	14	67	19	△5	86	16	69	15	1
輸送用機械	72	17	76	7	10	72	8	77	15	△7	71	13	72	15	△2
精密機械	21	10	52	38	△28	19	5	79	16	△11	19	11	68	21	△10
その他	44	9	66	25	△16	44	20	60	20	0	44	16	70	14	2
計	663	12	67	21	△9	667	14	68	18	△4	661	15	69	16	△1
卸売業															
生産財	32	9	78	13	△4	37	16	62	22	△6	37	11	73	16	△5
消費財	35	17	74	9	8	38	16	68	16	0	38	8	76	16	△8
計	67	13	77	10	3	75	16	65	19	△3	75	9	75	16	△7
合計	730	12	68	20	△8	742	14	68	18	△4	736	15	69	16	△1

(3) 宅配便

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、窯業・土石、金属製品、消費財卸の3業種がプラス、化学・プラスチックおよびその他の製造業がゼロ水準で、木材・家具、精密機械など10業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2016年7～9月）実績から4ポイント上昇して△3となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、化学・プラスチックおよび窯業・土石がマイナスに沈む一方、その他の製造業がプラスに浮上し、パルプ・紙および一般機械もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△2と強含み横ばいで推移する見通しであり、利用減退の動きは弱まるとみられる。

宅配便利用の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	79	9	80	11	△2	77	12	74	14	△2	77	11	75	14	△3
繊維・衣服	31	6	62	32	△26	28	11	71	18	△7	28	11	68	21	△10
木材・家具	32	9	72	19	△10	32	3	81	16	△13	31	6	81	13	△7
パルプ・紙	26	19	77	4	15	26	8	81	11	△3	26	12	76	12	0
化学・プラスチック	89	5	79	16	△11	83	7	86	7	0	83	6	87	7	△1
窯業・土石	26	8	84	8	0	27	7	89	4	3	27	7	82	11	△4
鉄鋼・非鉄	61	8	76	16	△8	66	1	91	8	△7	66	3	86	11	△8
金属製品	48	8	82	10	△2	47	21	70	9	12	46	11	83	6	5
一般機械	84	13	70	17	△4	84	12	74	14	△2	83	16	68	16	0
電気機械	101	10	72	18	△8	104	10	69	21	△11	104	13	73	14	△1
輸送用機械	80	3	84	13	△10	80	10	74	16	△6	80	9	74	17	△8
精密機械	28	7	50	43	△36	27	15	55	30	△15	26	19	46	35	△16
その他	48	10	73	17	△7	46	20	60	20	0	46	13	80	7	6
計	733	9	75	16	△7	727	10	76	14	△4	723	10	76	14	△4
卸売業															
生産財	36	8	70	22	△14	41	15	68	17	△2	41	12	73	15	△3
消費財	41	22	66	12	10	44	20	73	7	13	44	14	82	4	10
計	77	15	68	17	△2	85	18	70	12	6	85	13	78	9	4
合計	810	9	75	16	△7	812	11	75	14	△3	808	11	76	13	△2

(4) 鉄道コンテナ

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料など4業種がプラス、化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄、金属製品の3業種がゼロ水準で、木材・家具、消費財卸など8業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は△7と、前期（2016年7～9月）実績から横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄、金属製品の3業種がマイナスに沈む一方、一般機械、輸送用機械など8業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△5と2ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きはいくぶん弱まるとみられる。

鉄道コンテナ利用の実績と見通し

業 種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構 成			利用動向指数	回答社数	構 成			利用動向指数	回答社数	構 成			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	44	11	73	16	△5	52	17	69	14	3	52	19	71	10	9
繊維・衣服	10	10	70	20	△10	8	13	87	0	13	8	25	75	0	25
木材・家具	17	0	76	24	△24	19	5	63	32	△27	19	10	58	32	△22
パルプ・紙	29	10	69	21	△11	33	15	58	27	△12	33	15	64	21	△6
化学・プラスチック	81	13	72	15	△2	77	12	76	12	0	76	10	78	12	△2
窯業・土石	16	12	63	25	△13	17	0	76	24	△24	17	0	76	24	△24
鉄鋼・非鉄	40	14	68	18	△4	41	15	70	15	0	41	12	68	20	△8
金属製品	22	18	73	9	9	22	9	82	9	0	22	5	86	9	△4
一般機械	31	3	81	16	△13	29	4	72	24	△20	28	11	71	18	△7
電気機械	34	8	71	21	△13	38	8	74	18	△10	37	8	76	16	△8
輸送用機械	35	14	72	14	0	35	3	74	23	△20	33	12	70	18	△6
精密機械	13	0	92	8	△8	11	18	73	9	9	11	27	64	9	18
その他	25	4	76	20	△16	26	11	81	8	3	26	11	81	8	3
計	397	10	73	17	△7	408	10	73	17	△7	403	12	73	15	△3
卸売業															
生産財	8	0	88	12	△12	15	7	66	27	△20	15	0	73	27	△27
消費財	21	5	76	19	△14	24	0	75	25	△25	24	0	75	25	△25
計	29	3	80	17	△14	39	2	72	26	△24	39	0	74	26	△26
合計	426	10	73	17	△7	447	10	73	17	△7	442	11	73	16	△5

(5) 内航コンテナ・RORO船

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料、木材・家具、パルプ・紙の3業種がプラス、精密機械がゼロ水準で、残り11業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2016年7～9月）実績から5ポイント低下して△9となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、パルプ・紙がゼロ水準に下降する一方、金属製品および一般機械がゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△8と強含み横ばいで推移する見通しであり、利用減退の動きに大きな変化はないとみられる。

内航コンテナ・RORO船利用の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	33	3	82	15	△12	33	24	67	9	15	33	24	67	9	15
繊維・衣服	7	29	57	14	15	6	0	83	17	△17	6	0	83	17	△17
木材・家具	10	10	80	10	0	10	20	70	10	10	10	10	90	0	10
パルプ・紙	19	21	74	5	16	23	17	74	9	8	23	9	82	9	0
化学・プラスチック	61	1	89	10	△9	56	5	84	11	△6	56	2	91	7	△5
窯業・土石	11	0	82	18	△18	11	9	55	36	△27	11	9	64	27	△18
鉄鋼・非鉄	23	13	70	17	△4	28	3	86	11	△8	28	4	78	18	△14
金属製品	15	0	93	7	△7	16	0	87	13	△13	15	7	86	7	0
一般機械	28	18	64	18	0	29	10	73	17	△7	28	14	72	14	0
電気機械	33	3	82	15	△12	34	0	85	15	△15	34	0	85	15	△15
輸送用機械	30	20	77	3	17	28	0	79	21	△21	28	0	82	18	△18
精密機械	10	10	80	10	0	10	10	80	10	0	10	10	80	10	0
その他	16	0	88	12	△12	23	9	56	35	△26	22	4	64	32	△28
計	296	8	80	12	△4	307	8	77	15	△7	304	7	80	13	△6
卸売業															
生産財	6	0	100	0	0	10	10	70	20	△10	10	10	70	20	△10
消費財	13	0	85	15	△15	18	11	45	44	△33	18	0	61	39	△39
計	19	0	89	11	△11	28	11	53	36	△25	28	4	64	32	△28
合計	315	8	80	12	△4	335	8	75	17	△9	332	7	78	15	△8

(6) 国内航空

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、鉄鋼・非鉄および生産財卸がプラス、木材・家具、金属製品、精密機械の3業種がゼロ水準で、食料品・飲料、消費財卸など10業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2016年7～9月）実績から2ポイント低下して△14となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具がプラスに浮上する一方、鉄鋼・非鉄、金属製品、精密機械の3業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△15と弱含み横ばいで推移する見込みであり、利用減退の圧力がいくぶん強まるとみられる。

国内航空利用の実績と見通し

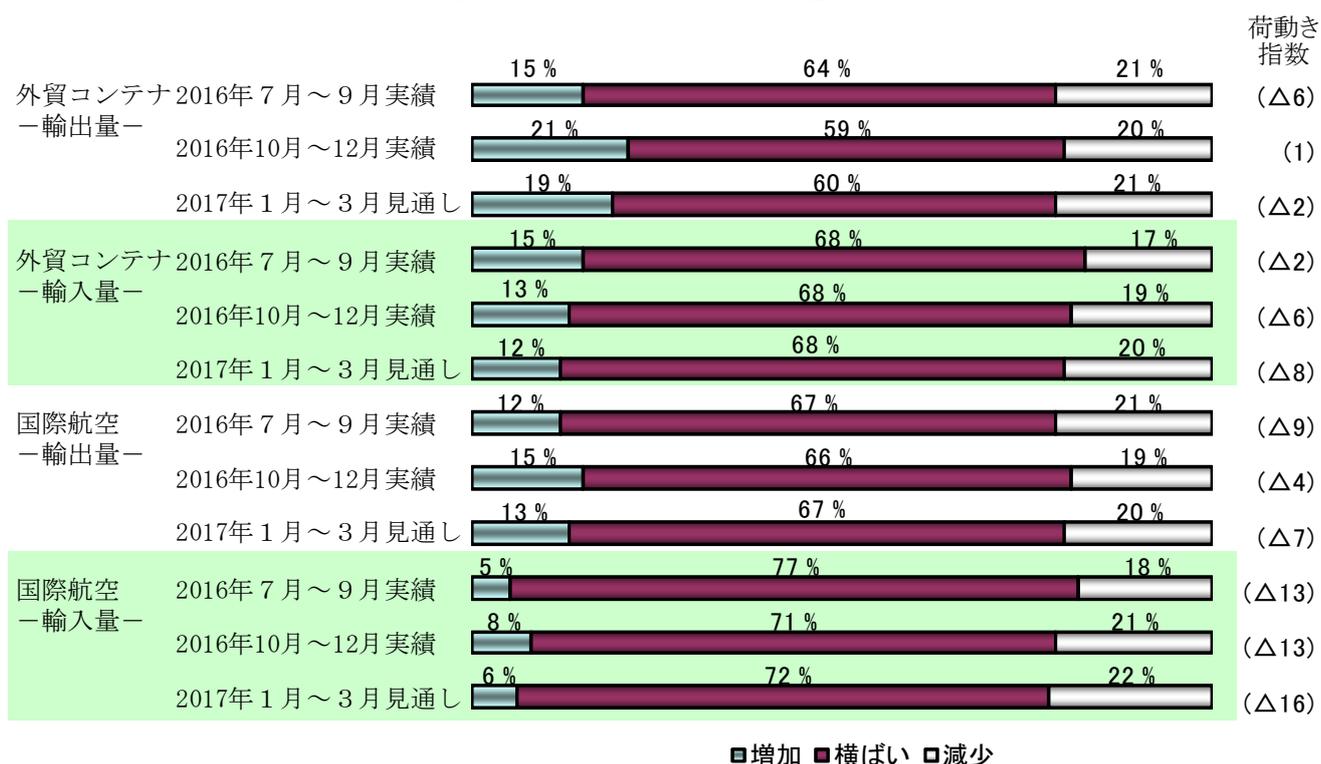
業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数	回答社数	構成			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	20	5	70	25	△20	21	0	71	29	△29	21	0	71	29	△29
繊維・衣服	10	0	80	20	△20	10	0	90	10	△10	10	0	90	10	△10
木材・家具	10	0	80	20	△20	10	10	80	10	0	10	20	80	0	20
パルプ・紙	2	0	100	0	0	4	0	75	25	△25	4	0	75	25	△25
化学・プラスチック	44	9	86	5	4	38	5	82	13	△8	38	5	82	13	△8
窯業・土石	11	0	91	9	△9	11	0	73	27	△27	11	0	73	27	△27
鉄鋼・非鉄	20	10	75	15	△5	21	9	86	5	4	21	0	86	14	△14
金属製品	16	6	75	19	△13	16	6	88	6	0	15	0	93	7	△7
一般機械	43	2	77	21	△19	37	14	59	27	△13	36	8	67	25	△17
電気機械	57	10	72	18	△8	57	2	74	24	△22	57	4	77	19	△15
輸送用機械	26	3	85	12	△9	29	10	59	31	△21	29	3	66	31	△28
精密機械	16	12	50	38	△26	16	19	62	19	0	16	12	69	19	△7
その他	14	0	71	29	△29	21	5	76	19	△14	21	0	81	19	△19
計	289	6	77	17	△11	291	7	73	20	△13	289	4	77	19	△15
卸売業															
生産財	11	18	64	18	0	14	22	64	14	8	14	22	64	14	8
消費財	16	0	75	25	△25	22	0	64	36	△36	22	0	68	32	△32
計	27	7	71	22	△15	36	8	64	28	△20	36	8	67	25	△17
合計	316	6	76	18	△12	327	7	72	21	△14	325	5	75	20	△15

－ 4. 輸出入貨物量の動向－

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』をみると、外貿コンテナの輸出および国際航空の輸出において前期（2016年7～9月）実績より上昇する一方、外貿コンテナの輸入で低下、国際航空の輸入では横ばいで推移した。『荷動き指数』は、外貿コンテナの輸出でプラスに浮上したが、その他の輸送機関では引き続きマイナスを示した。

■ 2017年1～3月の見通しでは、すべての輸送機関において『荷動き指数』の低下が見込まれる。この結果、すべての輸送機関で『荷動き指数』はマイナスとなり、荷動き回復に向けての足取りは依然として鈍い。

輸出入貨物量の実績と見通し



(1) 外貿コンテナ ー輸出ー

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、食料品・飲料、鉄鋼・非鉄など7業種がプラスで、一般機械、消費財卸など8業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は前期（2016年7～9月）実績から7ポイント上昇してプラス1となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、窯業・土石およびその他の製造業がゼロ水準まで戻す一方、化学・プラスチックがマイナスに沈み、金属製品および生産財卸もゼロ水準に下降する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△2と3ポイント低下する見通しであり、荷動きは再び減退方向に動くと思われる。

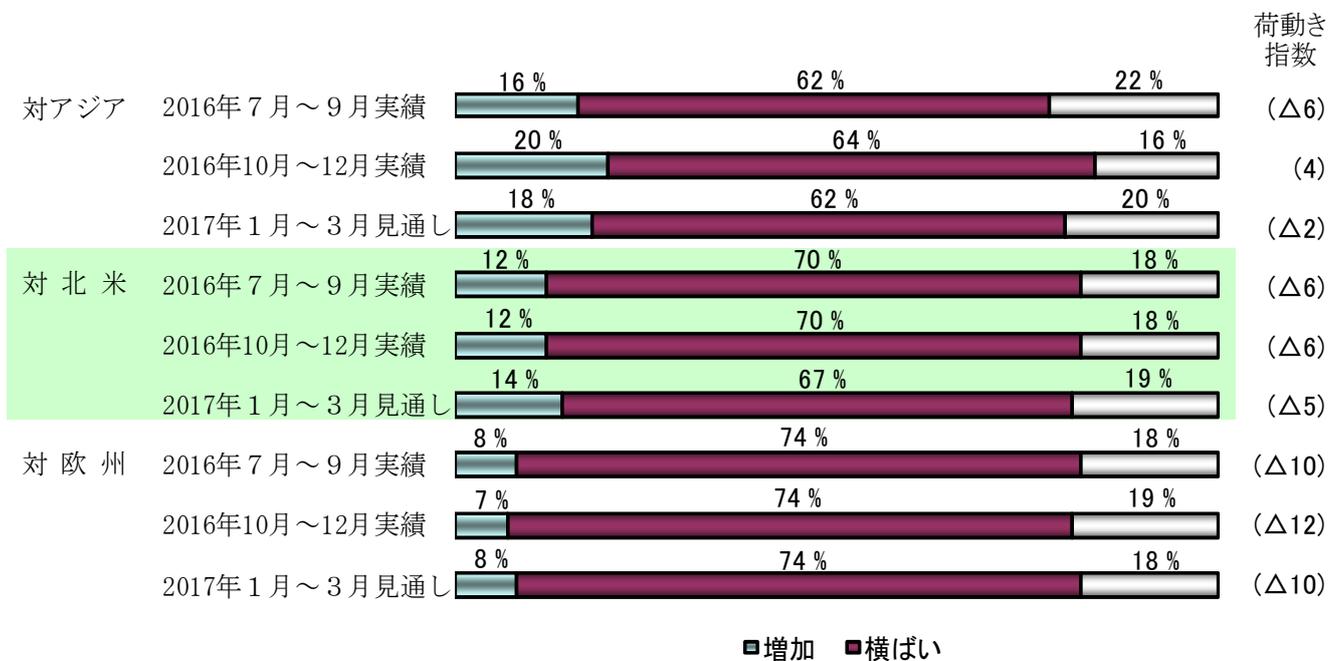
外貿コンテナによる輸出量の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	22	36	59	5	31	22	55	45	0	55	22	45	46	9	36	
繊維・衣服	13	23	54	23	0	12	17	58	25	△8	12	8	75	17	△9	
木材・家具	4	25	75	0	25	9	11	56	33	△22	9	0	67	33	△33	
パルプ・紙	14	7	64	29	△22	16	31	50	19	12	16	25	62	13	12	
化学・プラスチック	64	8	67	25	△17	55	22	62	16	6	55	16	60	24	△8	
窯業・土石	23	17	61	22	△5	21	14	67	19	△5	21	24	52	24	0	
鉄鋼・非鉄	45	13	71	16	△3	48	23	69	8	15	48	17	69	14	3	
金属製品	19	21	68	11	10	14	22	64	14	8	13	23	54	23	0	
一般機械	60	18	57	25	△7	64	17	50	33	△16	63	17	51	32	△15	
電気機械	57	21	60	19	2	62	19	63	18	1	62	21	66	13	8	
輸送用機械	55	9	71	20	△11	58	17	59	24	△7	58	19	55	26	△7	
精密機械	14	36	43	21	15	15	20	53	27	△7	15	20	47	33	△13	
その他	21	4	67	29	△25	28	11	71	18	△7	28	14	72	14	0	
計	411	16	64	20	△4	424	21	60	19	2	422	19	60	21	△2	
卸売業	生産財	7	0	71	29	△29	9	45	33	22	23	9	22	56	22	0
	消費財	10	0	80	20	△20	11	0	64	36	△36	11	0	64	36	△36
	計	17	0	76	24	△24	20	20	50	30	△10	20	10	60	30	△20
合計	428	15	64	21	△6	444	21	59	20	1	442	19	60	21	△2	

■ 2016年10～12月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、対アジアにおいて前期（2016年7～9月）実績より上昇する一方、対北米で横ばい、対欧州では低下した。『荷動き指数』は対アジアでプラス、対北米および対欧州ではマイナスを示している。

■ 2017年1～3月の『荷動き指数』見通しについては、対北米および対欧州で小幅な上昇がみられる一方、対アジアにおいては6ポイント低下して再びマイナスに沈む。総じてみると、荷動き減退の動きに変化はないが、とくに対欧州において減退圧力が強い。

外貨コンテナによる輸出量の実績と見通し（方面別）



(2) 外貿コンテナ - 輸入 -

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、食料品・飲料など4業種がプラス、化学・プラスチックがゼロ水準で、一般機械、精密機械など10業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は前期（2016年7～9月）実績から4ポイント低下して△6となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、化学・プラスチックおよび鉄鋼・非鉄がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△8と2ポイント低下する見通しであり、荷動き減退の動きはやや強まるとみられる。

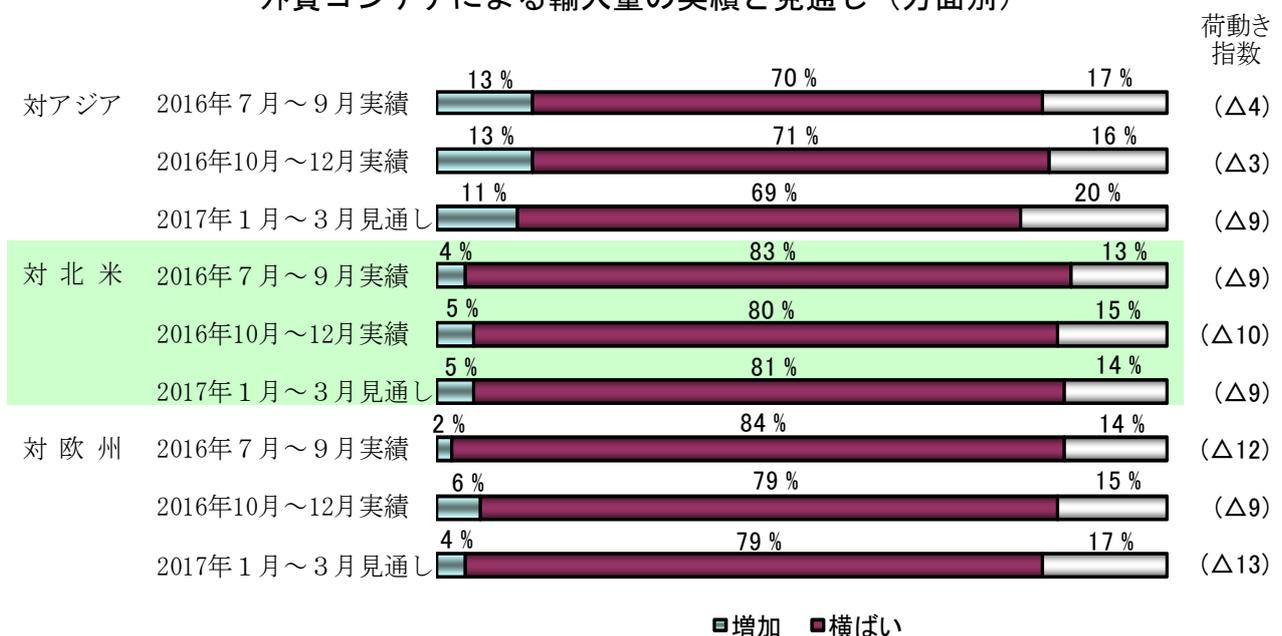
外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	21	29	57	14	15	17	35	53	12	23	17	23	59	18	5	
繊維・衣服	13	31	46	23	8	12	17	58	25	△8	12	17	50	33	△16	
木材・家具	11	9	55	36	△27	15	20	53	27	△7	15	13	47	40	△27	
パルプ・紙	6	17	66	17	0	8	0	75	25	△25	8	0	87	13	△13	
化学・プラスチック	55	16	73	11	5	50	12	76	12	0	50	12	74	14	△2	
窯業・土石	21	14	81	5	9	20	5	85	10	△5	20	5	85	10	△5	
鉄鋼・非鉄	27	22	48	30	△8	33	18	73	9	9	33	6	82	12	△6	
金属製品	19	11	78	11	0	13	15	77	8	7	13	15	77	8	7	
一般機械	60	13	69	18	△5	56	9	62	29	△20	55	11	58	31	△20	
電気機械	55	12	73	15	△3	57	9	77	14	△5	57	11	77	12	△1	
輸送用機械	55	12	73	15	△3	62	10	69	21	△11	62	13	66	21	△8	
精密機械	14	14	79	7	7	15	7	60	33	△26	15	7	60	33	△26	
その他	23	9	61	30	△21	27	7	74	19	△12	27	7	67	26	△19	
計	380	15	68	17	△2	385	12	70	18	△6	384	11	69	20	△9	
卸売業	生産財	11	0	64	36	△36	12	42	33	25	17	12	25	58	17	8
	消費財	13	8	77	15	△7	14	14	57	29	△15	14	14	57	29	△15
	計	24	4	71	25	△21	26	27	46	27	0	26	19	58	23	△4
合計	404	15	68	17	△2	411	13	68	19	△6	410	12	68	20	△8	

■ 2016年10～12月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、対アジアおよび対欧州において前期（2016年7～9月）実績より上昇する一方、対北米では低下した。『荷動き指数』はすべての方面でマイナスを示している。

■ 2017年1～3月の『荷動き指数』見通しについては、対北米で小幅な上昇がみられる一方、対アジアおよび対欧州において低下する見込みである。すべての方面で荷動きの減退圧力は強い。

外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し（方面別）



(3) 国際航空 —輸出—

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、鉄鋼・非鉄など4業種がプラス、木材・家具およびパルプ・紙がゼロ水準で、一般機械、電気機械など9業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は前期（2016年7～9月）実績から5ポイント上昇して△4となった。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、電気機械がプラスに浮上する一方、木材・家具がマイナスに沈み、鉄鋼・非鉄もゼロ水準に下降する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△7と3ポイント低下する見通しであり、荷動きは引き続き減退するとみられる。

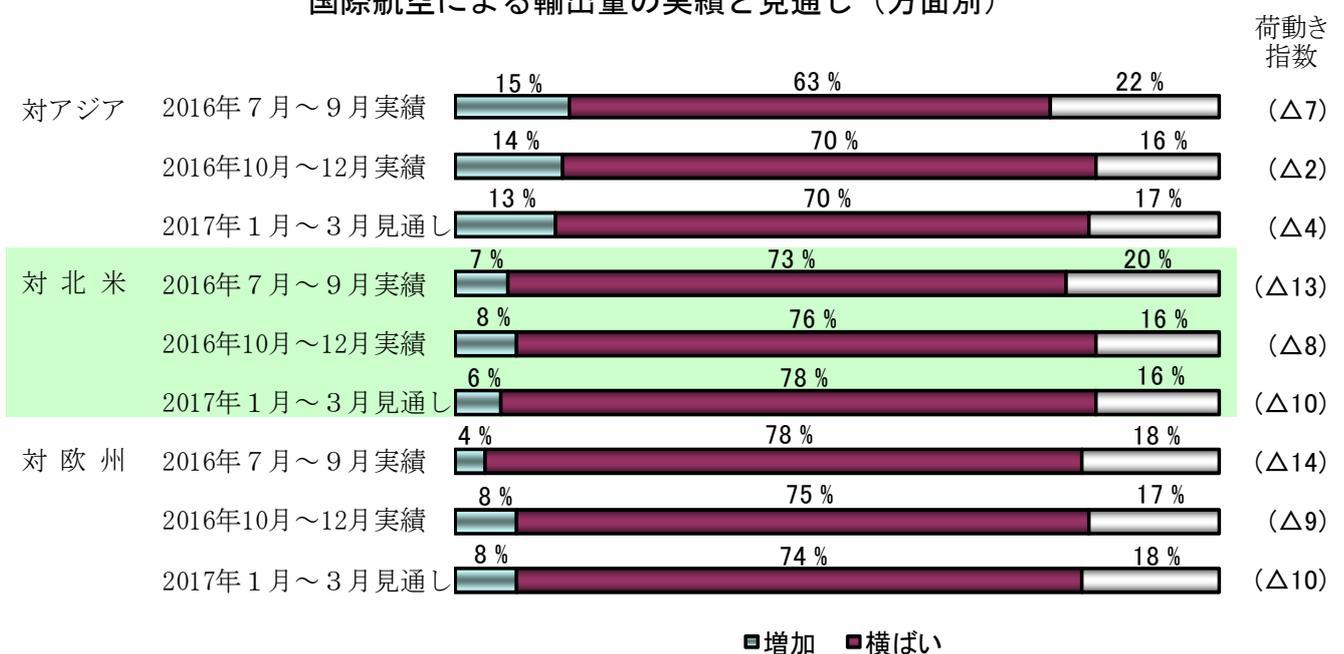
国際航空による輸出量の実績と見通し

業 種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	3	0	67	33	△33	5	20	80	0	20	5	20	80	0	20
繊維・衣服	12	0	67	33	△33	10	10	60	30	△20	10	10	60	30	△20
木材・家具	1	0	100	0	0	4	0	100	0	0	4	0	75	25	△25
パルプ・紙	1	0	100	0	0	1	0	100	0	0	1	0	100	0	0
化学・プラスチック	36	8	73	19	△11	41	7	83	10	△3	41	5	83	12	△7
窯業・土石	12	8	67	25	△17	11	18	55	27	△9	11	9	73	18	△9
鉄鋼・非鉄	26	23	62	15	8	28	18	71	11	7	28	14	72	14	0
金属製品	13	8	77	15	△7	11	0	91	9	△9	10	0	90	10	△10
一般機械	51	15	63	22	△7	54	17	52	31	△14	52	13	54	33	△20
電気機械	62	14	60	26	△12	73	15	69	16	△1	72	19	67	14	5
輸送用機械	33	6	82	12	△6	38	16	63	21	△5	38	11	68	21	△10
精密機械	17	12	59	29	△17	18	22	50	28	△6	18	22	50	28	△6
その他	11	18	73	9	9	17	18	76	6	12	17	18	76	6	12
計	278	12	67	21	△9	311	15	67	18	△3	307	13	68	19	△6
生産財	8	13	74	13	0	9	44	45	11	33	9	22	67	11	11
消費財	8	0	75	25	△25	6	0	33	67	△67	6	0	17	83	△83
計	16	6	75	19	△13	15	27	40	33	△6	15	13	47	40	△27
合計	294	12	67	21	△9	326	15	66	19	△4	322	13	67	20	△7

■ 2016年10～12月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、すべての方面において前期（2016年7～9月）実績より上昇した。ただし、『荷動き指数』はすべての方面でマイナスを示している。

■ 2017年1～3月の『荷動き指数』見通しについては、すべての方面で小幅な悪化が見込まれる。総じてみると、荷動き減退の動きに変化はないが、とくに対北米および対欧州において減退圧力が強い。

国際航空による輸出货量の実績と見通し（方面別）



(4) 国際航空 — 輸入 —

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、生産財卸が唯一プラスを示し、木材・家具、パルプ・紙、金属製品の3業種がゼロ水準で、残り11業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は△13で、前期（2016年7～9月）実績から横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、化学・プラスチックなど6業種が低下する以外に大きな動きはみられない。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△16と3ポイント低下する見通しであり、荷動きの減退圧力がいっそう強まるとみられる。

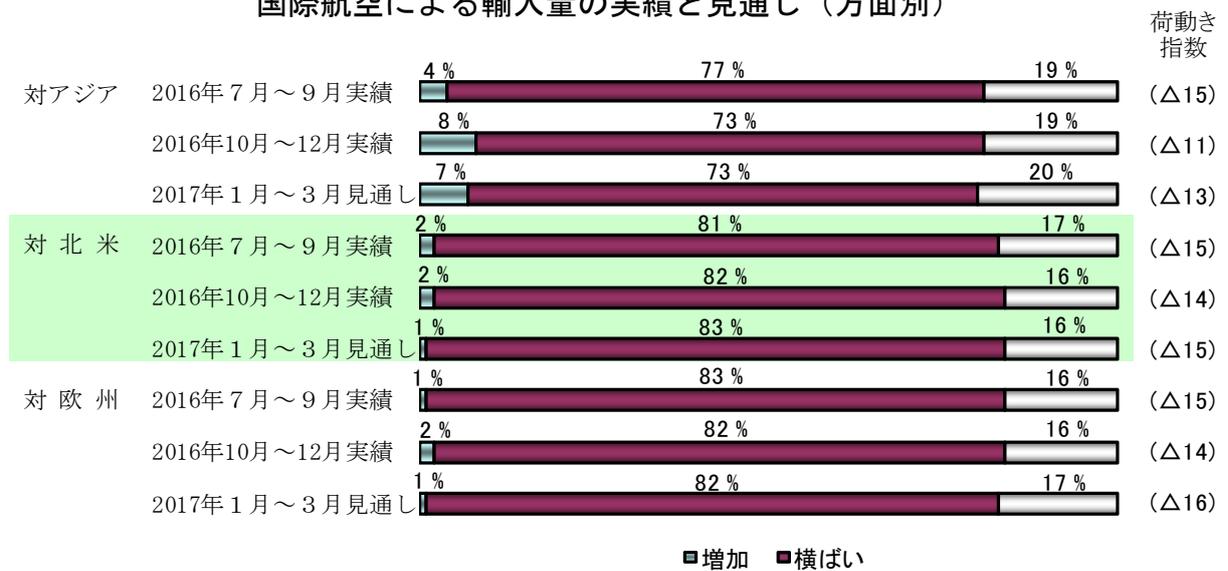
国際航空による輸入量の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	3	33	33	33	0	4	0	75	25	△ 25	4	0	75	25	△ 25
繊維・衣服	9	0	78	22	△ 22	7	14	57	29	△ 15	7	0	71	29	△ 29
木材・家具	1	0	100	0	0	3	0	100	0	0	3	0	100	0	0
パルプ・紙	2	0	100	0	0	1	0	100	0	0	1	0	100	0	0
化学・プラスチック	34	3	82	15	△ 12	31	0	90	10	△ 10	31	0	81	19	△ 19
窯業・土石	8	0	88	12	△ 12	9	0	67	33	△ 33	9	0	67	33	△ 33
鉄鋼・非鉄	19	5	84	11	△ 6	25	4	88	8	△ 4	25	0	88	12	△ 12
金属製品	10	0	100	0	0	6	0	100	0	0	6	0	100	0	0
一般機械	46	7	63	30	△ 23	45	4	69	27	△ 23	45	4	69	27	△ 23
電気機械	48	6	73	21	△ 15	58	9	76	15	△ 6	58	10	74	16	△ 6
輸送用機械	33	3	85	12	△ 9	35	8	66	26	△ 18	35	3	71	26	△ 23
精密機械	17	11	71	18	△ 7	20	20	45	35	△ 15	20	15	55	30	△ 15
その他	10	20	70	10	10	15	13	67	20	△ 7	15	7	73	20	△ 13
計	240	6	76	18	△ 12	259	7	73	20	△ 13	259	5	74	21	△ 16
卸売業															
生産財	9	0	89	11	△ 11	11	46	36	18	28	11	36	46	18	18
消費財	13	0	77	23	△ 23	8	0	50	50	△ 50	8	0	50	50	△ 50
計	22	0	82	18	△ 18	19	26	42	32	△ 6	19	21	47	32	△ 11
合計	262	5	77	18	△ 13	278	8	71	21	△ 13	278	6	72	22	△ 16

■ 2016年10～12月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、すべての方面において前期（2016年7～9月）実績より上昇した。ただし、『荷動き指数』はすべての方面で2ケタのマイナスを示している。

■ 2017年1～3月の『荷動き指数』見通しについては、すべての方面で小幅な悪化が見込まれ、すべての方面において荷動きの減退圧力が強まるとみられる。

国際航空による輸入量の実績と見通し（方面別）

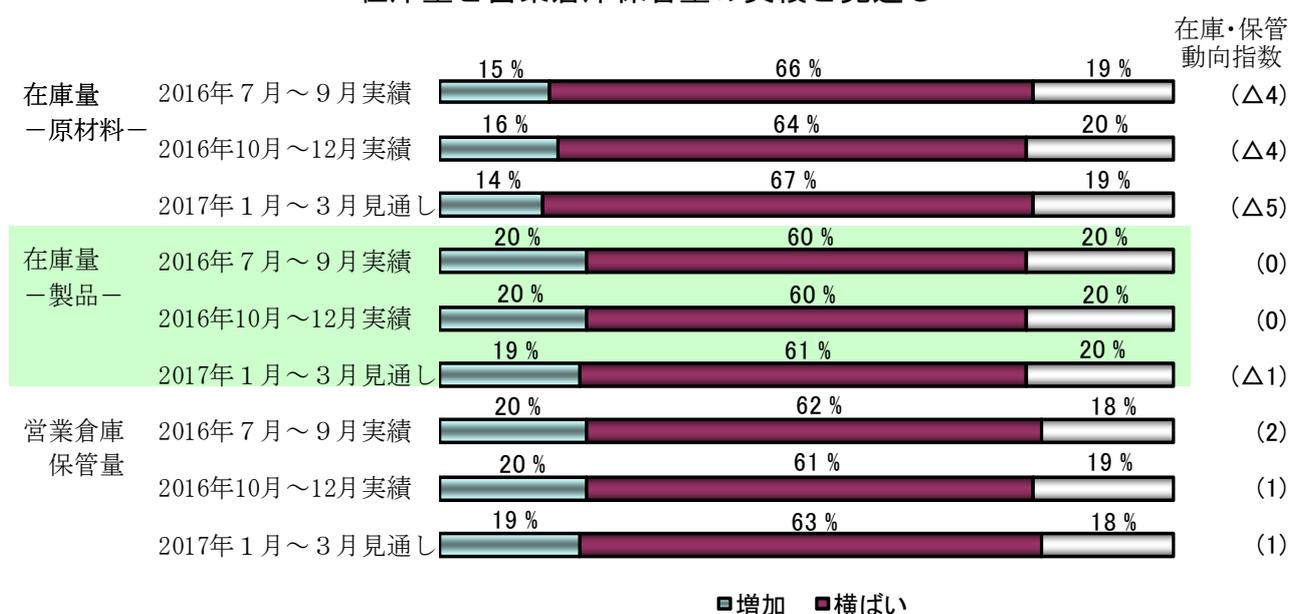


－ 5. 在庫量と営業倉庫利用の動向－

■ 2016年10～12月実績（見込み）の在庫量と営業倉庫保管量の動向をみると、原材料在庫および製品在庫において『動向指数』が前期（2016年7～9月）実績から横ばいで推移し、営業倉庫保管量では弱含み横ばいとなった。この結果、**営業倉庫保管量において『動向指数』がプラス、製品在庫でゼロ水準、原材料在庫ではマイナスとなり、ややバラツキがみられる。**

■ 2017年1～3月の見通しについては、営業倉庫保管量において『動向指数』が横ばいで推移する一方、原材料在庫および製品在庫では弱含み横ばいとなる見込みである。この結果、**営業倉庫保管料で『動向指数』が小幅なプラス、原材料在庫および製品在庫ではマイナスとなり、在庫調整は一進一退が続いている。**

在庫量と営業倉庫保管量の実績と見通し



(1) 在庫量 —原材料—

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、木材・家具、生産財卸など6業種がプラス、化学・プラスチックがゼロ水準で、電気機械、精密機械など8業種がマイナスを示した。業種全体の『在庫動向指数』は△4で、前期（2016年7～9月）実績から横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『在庫動向指数』見通しでは、化学・プラスチックがプラスに浮上し、輸送用機械もゼロ水準まで戻す一方、食料品・飲料、その他の製造業、消費財卸の3業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は△5と弱含み横ばいで推移する見通しで、原材料在庫は引き続き縮小するとみられる。

在庫量（原材料）の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			在庫動向指数	回答社数	構成			在庫動向指数	回答社数	構成			在庫動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	90	14	62	24	△10	91	24	59	17	7	91	18	61	21	△3
繊維・衣服	32	16	53	31	△15	31	19	52	29	△10	31	13	58	29	△16
木材・家具	37	27	57	16	11	39	26	61	13	13	39	13	77	10	3
パルプ・紙	40	10	83	7	3	40	5	77	18	△13	40	5	82	13	△8
化学・プラスチック	104	19	66	15	4	102	15	70	15	0	101	19	66	15	4
窯業・土石	36	11	75	14	△3	35	11	66	23	△12	35	14	60	26	△12
鉄鋼・非鉄	88	10	66	24	△14	92	12	65	23	△11	92	4	75	21	△17
金属製品	45	16	71	13	3	44	18	73	9	9	42	12	79	9	3
一般機械	84	14	69	17	△3	79	11	66	23	△12	79	14	63	23	△9
電気機械	97	14	61	25	△11	96	7	63	30	△23	96	12	65	23	△11
輸送用機械	89	15	73	12	3	88	16	67	17	△1	88	17	66	17	0
精密機械	27	22	48	30	△8	25	16	48	36	△20	25	16	48	36	△20
その他	52	12	71	17	△5	52	19	66	15	4	52	14	67	19	△5
計	821	15	66	19	△4	814	15	65	20	△5	811	13	67	20	△7
卸売業															
生産財	28	21	65	14	7	30	30	57	13	17	31	19	74	7	12
消費財	31	16	68	16	0	29	24	55	21	3	29	21	55	24	△3
計	59	19	66	15	4	59	27	56	17	10	60	20	65	15	5
合計	880	15	66	19	△4	873	16	64	20	△4	871	14	67	19	△5

(2) 在庫量 —製品—

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、パルプ・紙、精密機械など8業種がプラス、輸送用機械ゼロ水準で、繊維・衣服、一般機械など6業種がマイナスを示した。業種全体の『在庫動向指数』はゼロ水準で、前期（2016年7～9月）実績から横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『在庫動向指数』見通しでは、木材・家具および輸送用機械がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は△1と弱含み横ばいで推移する見通しで、製品在庫は小幅な動きに終始するとみられる。

在庫量（製品）の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			在庫動向指数	回答社数	構成			在庫動向指数	回答社数	構成			在庫動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	96	20	55	25	△5	98	26	59	15	11	98	24	58	18	6
繊維・衣服	32	25	44	31	△6	31	13	58	29	△16	31	16	52	32	△16
木材・家具	39	23	54	23	0	37	27	54	19	8	37	16	60	24	△8
パルプ・紙	42	31	64	5	26	42	31	52	17	14	42	26	62	12	14
化学・プラスチック	109	24	59	17	7	108	22	59	19	3	107	23	56	21	2
窯業・土石	35	14	69	17	△3	36	20	58	22	△2	36	14	61	25	△11
鉄鋼・非鉄	92	16	58	26	△10	97	17	59	24	△7	97	12	69	19	△7
金属製品	49	31	57	12	19	45	24	58	18	6	44	23	61	16	7
一般機械	87	16	60	24	△8	83	12	64	24	△12	83	18	58	24	△6
電気機械	102	14	62	24	△10	101	12	65	23	△11	101	15	64	21	△6
輸送用機械	91	13	64	23	△10	90	13	74	13	0	90	15	67	18	△3
精密機械	26	27	46	27	0	27	33	48	19	14	27	30	44	26	4
その他	53	23	64	13	10	54	17	61	22	△5	54	15	59	26	△11
計	853	20	59	21	△1	849	19	61	20	△1	847	18	61	21	△3
卸売業															
生産財	39	23	62	15	8	47	28	51	21	7	47	21	62	17	4
消費財	42	17	71	12	5	41	24	56	20	4	41	22	61	17	5
計	81	20	67	13	7	88	26	53	21	5	88	22	61	17	5
合計	934	20	60	20	0	937	20	60	20	0	935	19	61	20	△1

(3) 営業倉庫保管量

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『保管動向指数』は、食料品・飲料、木材・家具など5業種がプラス、金属製品、輸送用機械、その他の製造業の3業種がゼロ水準で、繊維・衣服、電気機械など7業種がマイナスを示した。業種全体の『保管動向指数』はプラス1で、前期（2016年7～9月）実績から弱含み横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『保管動向指数』見通しでは、化学・プラスチックおよび金属製品がプラスに浮上し、一般機械がゼロ水準まで戻す一方、輸送用機械、精密機械、その他の製造業の3業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『保管動向指数』はプラス1と横ばいで推移する見通しであり、営業倉庫保管量はわずかながら増加の動きが続くとみられる。

営業倉庫保管量の実績と見通し

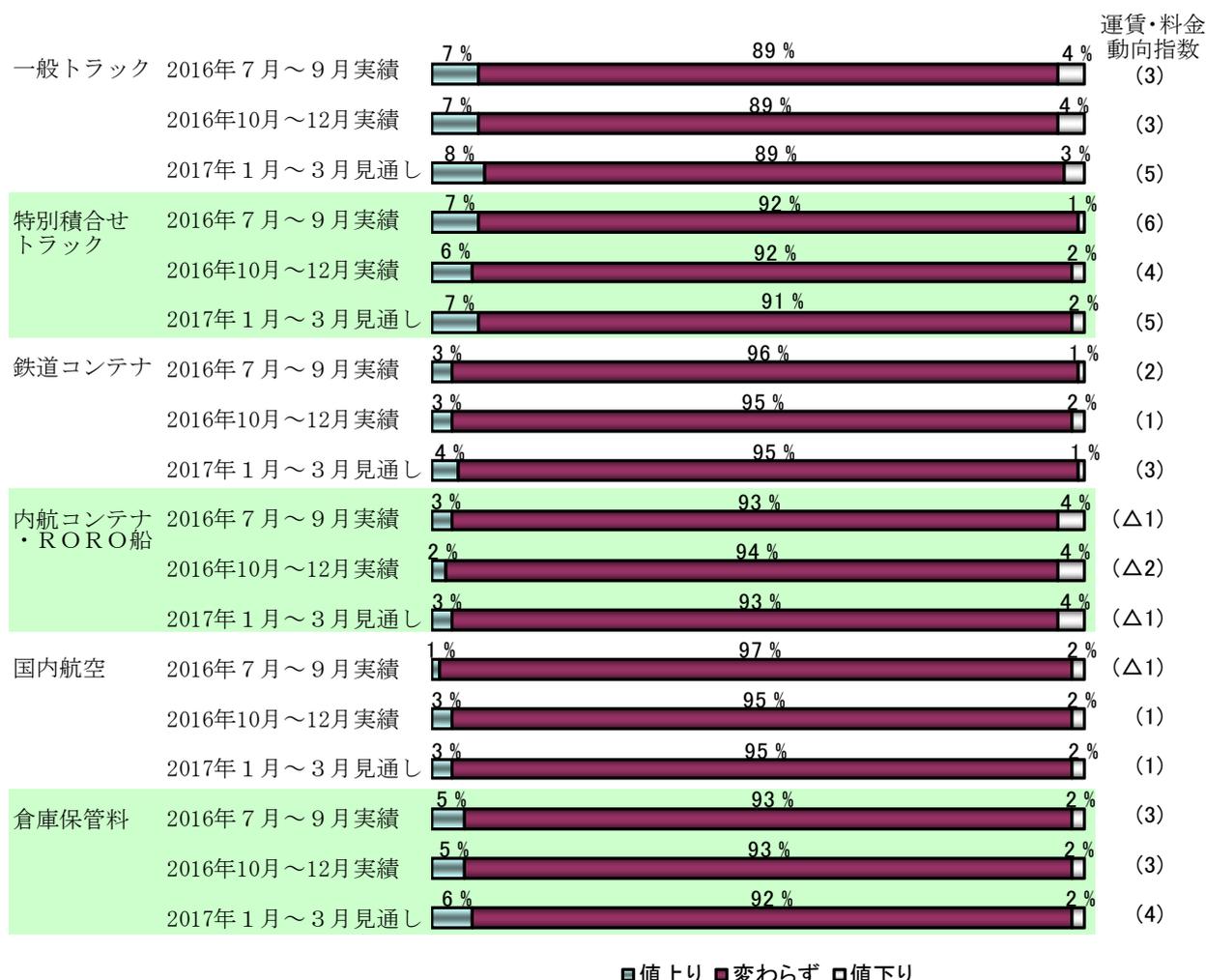
業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			保管動向指数	回答社数	構成			保管動向指数	回答社数	構成			保管動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	80	20	60	20	0	75	32	55	13	19	75	27	54	19	8
繊維・衣服	17	24	47	29	△5	17	18	47	35	△17	17	18	53	29	△11
木材・家具	30	20	57	23	△3	30	30	60	10	20	30	17	73	10	7
パルプ・紙	37	30	57	13	17	39	18	62	20	△2	39	13	72	15	△2
化学・プラスチック	95	21	60	19	2	92	16	66	18	△2	92	22	63	15	7
窯業・土石	23	9	78	13	△4	24	13	62	25	△12	24	13	62	25	△12
鉄鋼・非鉄	68	13	74	13	0	72	20	65	15	5	72	18	65	17	1
金属製品	28	21	65	14	7	27	22	56	22	0	25	20	64	16	4
一般機械	60	25	58	17	8	56	18	62	20	△2	56	21	58	21	0
電気機械	70	24	57	19	5	70	10	64	26	△16	70	16	67	17	△1
輸送用機械	73	15	67	18	△3	69	17	66	17	0	69	16	64	20	△4
精密機械	18	28	50	22	6	19	26	53	21	5	19	21	53	26	△5
その他	39	18	67	15	3	43	12	76	12	0	43	12	72	16	△4
計	638	20	62	18	2	633	19	63	18	1	631	19	63	18	1
卸売業															
生産財	33	21	67	12	9	40	33	49	18	15	40	25	62	13	12
消費財	35	11	66	23	△12	40	20	52	28	△8	40	15	57	28	△13
計	68	16	66	18	△2	80	26	51	23	3	80	20	60	20	0
合計	706	20	62	18	2	713	20	61	19	1	711	19	63	18	1

－ 6. 運賃・料金の動向－

■ 2016年10～12月の運賃・料金水準『動向指数』実績（見込み）は、国内航空で前期（2016年7～9月）実績から上昇する一方、一般トラックおよび倉庫保管料では横ばいで推移し、その他の機関においては低下した。『動向指数』は、**内航コンテナ・RORO以外の機関においてプラスとなった。**

■ 2017年1～3月の『動向指数』見通しについては、国内航空において横ばいで推移する一方、その他の機関では小幅ながら上昇する。この結果、**内航コンテナ・RORO船でマイナスにとどまる以外は、残りの5機関ではプラスを維持し、運賃・料金の緩やかな上昇基調に変化はない。**

運賃・料金の実績と見通し



(1) 一般トラック運賃

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、食料品・飲料、消費財卸など8業種がプラス、木材・家具および窯業・土石がゼロ水準で、輸送用機械など5業種がマイナスを示した。業種全体の『運賃動向指数』はプラス3で、前期(2016年7～9月)実績から横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、パルプ・紙、鉄鋼・非鉄、輸送用機械の3業種がゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス5と2ポイント上昇する見通しであり、運賃水準の緩やかな上昇が続くとみられる。

一般トラック運賃の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	103	18	80	2	16	100	16	83	1	15	100	18	81	1	17
繊維・衣服	29	7	93	0	7	28	11	89	0	11	28	7	93	0	7
木材・家具	39	5	87	8	△3	39	3	94	3	0	39	3	94	3	0
パルプ・紙	44	5	95	0	5	45	2	93	5	△3	45	4	92	4	0
化学・プラスチック	113	6	88	6	0	107	3	92	5	△2	107	4	91	5	△1
窯業・土石	35	0	97	3	△3	37	3	94	3	0	37	3	94	3	0
鉄鋼・非鉄	93	8	80	12	△4	96	9	80	11	△2	96	7	86	7	0
金属製品	49	4	94	2	2	50	10	90	0	10	49	8	92	0	8
一般機械	89	4	94	2	2	89	5	94	1	4	89	3	95	2	1
電気機械	101	6	91	3	3	100	6	93	1	5	99	7	92	1	6
輸送用機械	96	4	90	6	△2	91	4	87	9	△5	91	7	86	7	0
精密機械	27	7	86	7	0	26	4	85	11	△7	26	0	88	12	△12
その他	55	4	92	4	0	56	7	93	0	7	55	9	87	4	5
計	873	7	89	4	3	864	7	89	4	3	861	7	89	4	3
卸売業															
生産財	42	10	90	0	10	48	10	90	0	10	48	13	87	0	13
消費財	46	15	85	0	15	49	12	88	0	12	49	20	80	0	20
計	88	12	88	0	12	97	11	89	0	11	97	16	84	0	16
合計	961	7	89	4	3	961	7	89	4	3	958	8	89	3	5

(2) 特別積合せトラック運賃

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、食料品・飲料、生産財卸など9業種がプラス、木材・家具、パルプ・紙、窯業・土石の3業種がゼロ水準で、鉄鋼・非鉄、輸送用機械、精密機械の3業種がマイナスを示した。業種全体の『運賃動向指数』は、前期(2016年7～9月)実績から2ポイント低下してプラス4となった。

■ 2017年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、窯業・土石および鉄鋼・非鉄がプラスに浮上し、輸送用機械もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス5と強含み横ばいで推移する見通しであり、運賃水準の緩やかな上昇が続くとみられる。

特別積合せトラック運賃の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	68	13	87	0	13	75	16	84	0	16	75	16	84	0	16
繊維・衣服	25	12	84	4	8	27	7	93	0	7	27	4	96	0	4
木材・家具	27	4	92	4	0	24	0	100	0	0	24	0	100	0	0
パルプ・紙	23	4	96	0	4	26	4	92	4	0	26	4	92	4	0
化学・プラスチック	102	10	88	2	8	95	6	92	2	4	94	5	93	2	3
窯業・土石	24	4	96	0	4	25	4	92	4	0	25	8	88	4	4
鉄鋼・非鉄	67	4	93	3	1	70	3	91	6	△3	70	6	91	3	3
金属製品	36	8	92	0	8	37	11	89	0	11	36	11	89	0	11
一般機械	67	1	99	0	1	65	5	94	1	4	64	5	94	1	4
電気機械	87	5	93	2	3	85	2	97	1	1	84	5	95	0	5
輸送用機械	72	3	94	3	0	70	3	93	4	△1	70	4	92	4	0
精密機械	20	5	90	5	0	20	0	95	5	△5	19	0	95	5	△5
その他	42	5	95	0	5	45	7	93	0	7	44	9	91	0	9
計	660	6	92	2	4	664	6	92	2	4	658	6	92	2	4
卸売業															
生産財	32	12	88	0	12	38	11	89	0	11	38	11	89	0	11
消費財	34	15	85	0	15	40	8	92	0	8	40	15	85	0	15
計	66	14	86	0	14	78	9	91	0	9	78	13	87	0	13
合計	726	7	92	1	6	742	6	92	2	4	736	7	91	2	5

(3) 鉄道コンテナ運賃

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、消費財卸など6業種がプラス、食料品・飲料など6業種がゼロ水準で、鉄鋼・非鉄、一般機械、精密機械の3業種がマイナスを示した。業種全体の『運賃動向指数』はプラス1で、前期(2016年7～9月)実績から弱含み横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、窯業・土石がマイナスに沈む一方、食料品・飲料がプラスに浮上し、鉄鋼・非鉄もゼロ水準まで戻すなど3業種において上昇が見込まれる以外に動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス3と2ポイント上昇する見通しであり、運賃水準の上昇圧力はわずかながら強まるとみられる。

鉄道コンテナ運賃の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	43	2	98	0	2	50	2	96	2	0	50	6	92	2	4
繊維・衣服	10	0	100	0	0	10	0	100	0	0	10	0	100	0	0
木材・家具	17	0	100	0	0	20	0	100	0	0	20	0	100	0	0
パルプ・紙	28	4	96	0	4	32	9	88	3	6	32	9	88	3	6
化学・プラスチック	84	4	96	0	4	76	1	99	0	1	76	3	97	0	3
窯業・土石	16	6	88	6	0	16	6	88	6	0	16	0	94	6	△6
鉄鋼・非鉄	40	2	98	0	2	41	0	98	2	△2	41	0	100	0	0
金属製品	22	0	100	0	0	21	5	95	0	5	21	5	95	0	5
一般機械	30	0	100	0	0	31	0	97	3	△3	31	0	97	3	△3
電気機械	34	0	100	0	0	35	0	100	0	0	35	0	100	0	0
輸送用機械	33	6	91	3	3	33	9	85	6	3	33	9	85	6	3
精密機械	12	0	92	8	△8	12	0	92	8	△8	12	0	92	8	△8
その他	21	5	95	0	5	26	8	92	0	8	25	8	92	0	8
計	390	2	97	1	1	403	3	95	2	1	402	3	95	2	1
卸売業															
生産財	9	11	89	0	11	15	0	100	0	0	15	0	100	0	0
消費財	18	6	94	0	6	21	10	90	0	10	21	10	90	0	10
計	27	7	93	0	7	36	6	94	0	6	36	6	94	0	6
合計	417	3	96	1	2	439	3	95	2	1	438	4	95	1	3

(4) 内航コンテナ・RORO運賃

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、食料品・飲料、鉄鋼・非鉄、一般機械の3業種がプラス、繊維・衣服など6業種がゼロ水準で、パルプ・紙など6業種がマイナスを示した。業種全体の『運賃動向指数』は△2で、前期（2016年7～9月）実績から弱含み横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、その他の製造業がマイナスに沈む一方、金属製品がプラスに浮上し、窯業・土石もゼロ水準まで戻すなど4業種において上昇が見込まれる以外に大きな動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』は△1と強含み横ばいで推移する見通しであり、運賃水準は小幅な低下になるとみられる。

内航コンテナ・RORO運賃の実績と見通し

業 種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答 社数	構 成			運賃動 向指数	回答 社数	構 成			運賃動 向指数	回答 社数	構 成			運賃動 向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	26	12	85	3	9	32	6	91	3	3	32	6	91	3	3
繊維・衣服	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0
木材・家具	9	0	100	0	0	11	0	91	9	△9	11	0	91	9	△9
パルプ・紙	20	5	80	15	△10	20	0	80	20	△20	20	5	75	20	△15
化学・プラスチック	62	0	95	5	△5	58	0	98	2	△2	58	0	98	2	△2
窯業・土石	12	0	100	0	0	11	0	91	9	△9	11	0	100	0	0
鉄鋼・非鉄	23	4	92	4	0	26	4	96	0	4	26	8	92	0	8
金属製品	15	0	100	0	0	13	0	100	0	0	13	8	92	0	8
一般機械	29	0	100	0	0	28	7	89	4	3	27	7	89	4	3
電気機械	34	3	91	6	△3	32	0	100	0	0	32	0	100	0	0
輸送用機械	28	7	86	7	0	26	4	85	11	△7	26	4	85	11	△7
精密機械	10	0	90	10	△10	10	0	90	10	△10	9	0	89	11	△11
その他	15	0	100	0	0	20	0	100	0	0	19	0	95	5	△5
計	290	3	93	4	△1	294	2	94	4	△2	291	3	92	5	△2
卸売業															
生産財	5	0	100	0	0	8	0	100	0	0	8	0	100	0	0
消費財	12	0	100	0	0	18	0	100	0	0	18	0	100	0	0
計	17	0	100	0	0	26	0	100	0	0	26	0	100	0	0
合計	307	3	93	4	△1	320	2	94	4	△2	317	3	93	4	△1

(5) 国内航空運賃

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、食料品・飲料、消費財卸など6業種がプラス、繊維・衣服など6業種がゼロ水準で、窯業・土石、電気機械、精密機械の3業種がマイナスを示した。業種全体の『運賃動向指数』は、前期(2016年7～9月)実績から2ポイント上昇してプラス1となった。

■ 2017年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄がプラスに浮上する一方、化学・プラスチックおよび金属製品がゼロ水準に下降する以外に大きな動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス1と横ばいで推移する見通しであり、運賃水準は小幅な上昇になるとみられる。

国内航空運賃の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数	回答社数	構成			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	17	6	88	6	0	20	10	90	0	10	20	10	90	0	10
繊維・衣服	9	0	100	0	0	11	0	100	0	0	11	0	100	0	0
木材・家具	9	0	100	0	0	10	0	100	0	0	10	0	100	0	0
パルプ・紙	2	50	50	0	50	3	0	100	0	0	3	0	100	0	0
化学・プラスチック	45	0	98	2	△ 2	43	2	98	0	2	43	0	100	0	0
窯業・土石	11	0	100	0	0	8	0	87	13	△ 13	8	0	87	13	△ 13
鉄鋼・非鉄	21	0	100	0	0	22	0	100	0	0	22	5	95	0	5
金属製品	16	0	94	6	△ 6	13	8	92	0	8	12	0	100	0	0
一般機械	43	0	100	0	0	39	3	94	3	0	39	3	94	3	0
電気機械	56	0	98	2	△ 2	60	2	95	3	△ 1	60	0	97	3	△ 3
輸送用機械	27	0	100	0	0	27	4	96	0	4	27	4	96	0	4
精密機械	17	0	88	12	△ 12	16	0	87	13	△ 13	16	0	87	13	△ 13
その他	15	0	100	0	0	19	5	95	0	5	19	5	95	0	5
計	288	1	97	2	△ 1	291	3	95	2	1	290	2	96	2	0
卸売業															
生産財	11	0	100	0	0	14	0	100	0	0	14	0	100	0	0
消費財	15	0	100	0	0	20	10	90	0	10	20	15	85	0	15
計	26	0	100	0	0	34	6	94	0	6	34	9	91	0	9
合計	314	1	97	2	△ 1	325	3	95	2	1	324	3	95	2	1

(6) 営業倉庫保管料金

■ 2016年10～12月実績（見込み）の『料金動向指数』は、食料品・飲料、パルプ・紙など8業種がプラス、化学・プラスチックなど5業種がゼロ水準で、一般機械および精密機械がマイナスを示した。業種全体の『料金動向指数』はプラス3で、前期(2016年7～9月)実績から横ばいで推移した。

■ 2017年1～3月の『料金動向指数』見通しでは、輸送用機械およびその他の製造業がマイナスに沈み、繊維・衣服もゼロ水準に下降する一方、電気機械がプラスに浮上する以外に大きな動きはみられない。業種全体の『料金動向指数』はプラス4と強含み横ばいの推移が見込まれ、料金水準の緩やかな上昇が続くとみられる。

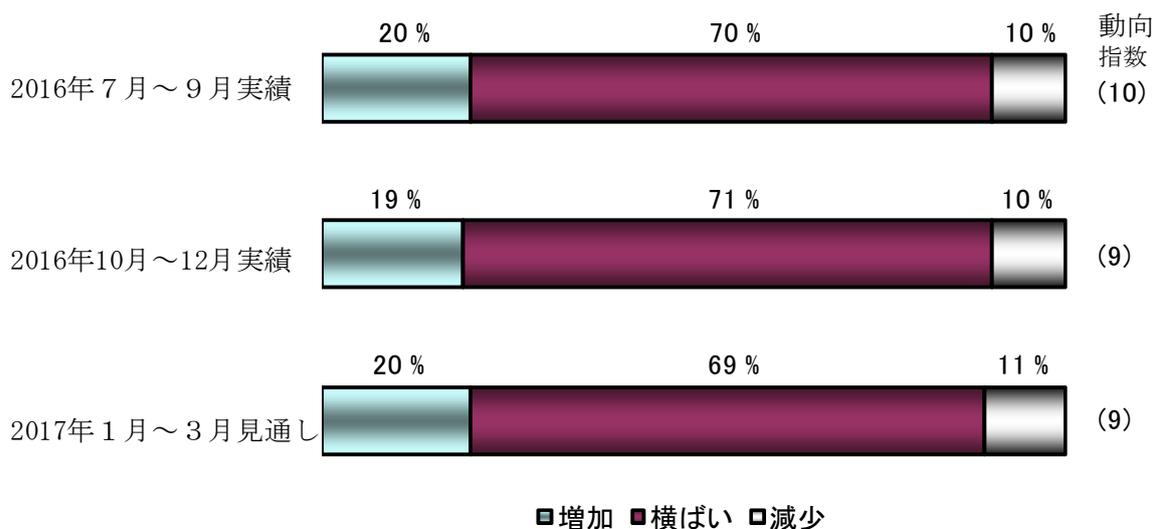
営業倉庫保管料金の実績と見通し

業種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し				
	回答社数	構成			料金動向指数	回答社数	構成			料金動向指数	回答社数	構成			料金動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	68	12	88	0	12	66	14	86	0	14	66	15	85	0	15
繊維・衣服	13	15	85	0	15	13	8	92	0	8	13	0	100	0	0
木材・家具	21	14	86	0	14	20	5	95	0	5	20	5	95	0	5
パルプ・紙	33	12	88	0	12	37	11	89	0	11	37	11	89	0	11
化学・プラスチック	87	3	97	0	3	82	5	90	5	0	82	5	90	5	0
窯業・土石	19	0	100	0	0	21	5	90	5	0	21	5	90	5	0
鉄鋼・非鉄	54	0	98	2	△2	57	4	96	0	4	57	3	95	2	1
金属製品	27	0	96	4	△4	22	5	95	0	5	22	5	95	0	5
一般機械	56	0	98	2	△2	55	0	98	2	△2	55	4	91	5	△1
電気機械	73	4	92	4	0	68	1	98	1	0	68	3	97	0	3
輸送用機械	59	7	90	3	4	59	3	94	3	0	59	3	92	5	△2
精密機械	14	0	93	7	△7	17	0	94	6	△6	17	0	94	6	△6
その他	33	0	100	0	0	34	0	100	0	0	33	0	97	3	△3
計	557	5	94	1	4	551	5	93	2	3	550	5	92	3	2
卸売業															
生産財	27	7	93	0	7	30	7	93	0	7	30	7	93	0	7
消費財	25	0	92	8	△8	31	13	81	6	7	31	13	84	3	10
計	52	4	92	4	0	61	10	87	3	7	61	10	88	2	8
合計	609	5	93	2	3	612	5	93	2	3	611	6	92	2	4

－ 7. 物流コスト割合の動向－

- 売上高に対する物流コスト割合の動向について、2016年10～12月実績（見込み）の『動向指数』は、電気機械が唯一マイナスを示し、輸送用機械およびその他の製造業がゼロ水準で、残り12業種がプラスを示した。業種全体の『動向指数』はプラス9で、前期（2016年7～9月）実績から弱含み横ばいで推移した。
- 2017年1～3月の『動向指数』見通しでは、電気機械、輸送用機械、その他の製造業の3業種がプラスに浮上する一方、鉄鋼・非鉄など6業種が低下する。この結果、業種全体の『動向指数』はプラス9と横ばいの推移が見込まれ、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強いものの、やや一服感がみられる。

物流コスト割合の実績と見通し



物流コスト割合の実績と見通し

業 種	2016年7月～9月実績					2016年10月～12月実績					2017年1月～3月見通し							
	回答 社数	構成比(%)			動 指 数	向 数	回答 社数	構成比(%)			動 指 数	向 数	回答 社数	構成比(%)			動 指 数	向 数
		上昇	不変	下降				上昇	不変	下降				上昇	不変	下降		
食料品・飲料	101	26	64	10	16	101	31	60	9	22	101	34	58	8	26			
繊維・衣服	34	24	65	11	13	33	18	70	12	6	33	18	67	15	3			
木材・家具	39	18	69	13	5	40	25	60	15	10	40	20	72	8	12			
パルプ・紙	43	16	77	7	9	45	27	60	13	14	45	22	67	11	11			
化学・プラスチック	114	18	76	6	12	109	16	75	9	7	109	18	74	8	10			
製 造 業	窯業・土石	38	16	76	8	8	36	11	89	0	11	36	14	81	5	9		
	鉄鋼・非鉄	94	14	74	12	2	98	13	80	7	6	98	11	79	10	1		
	金属製品	52	19	73	8	11	52	17	77	6	11	51	22	74	4	18		
	一般機械	92	18	73	9	9	90	19	70	11	8	90	23	62	15	8		
	電気機械	110	21	65	14	7	112	15	67	18	△3	112	19	64	17	2		
	輸送用機械	98	16	72	12	4	94	13	74	13	0	94	14	73	13	1		
	精密機械	29	21	66	13	8	29	14	79	7	7	29	14	76	10	4		
	その他	55	18	69	13	5	55	15	70	15	0	55	18	66	16	2		
	計	899	19	71	10	9	894	18	71	11	7	893	19	70	11	8		
	卸 売 業	生産財	45	29	56	15	14	51	23	69	8	15	51	20	74	6	14	
消費財		47	32	60	8	24	51	31	63	6	25	51	29	67	4	25		
計		92	30	58	12	18	102	27	66	7	20	102	24	71	5	19		
合 計	991	20	70	10	10	996	19	71	10	9	995	20	69	11	9			